

冬号

令和3年
(2021年)



大津・南部の農業

発行

滋賀県大津・南部農業農村振興事務所農産普及課 草津市草津三丁目14-75

●TEL 077-567-5421~5423 ●FAX 077-562-8144 ●メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp

●https://www.facebook.com/facetoagri.o.n ●発行責任者 森 真里

この印刷物は古紙/パルプを配合しています

**地域活性化の手法—現状を直視し、仲間をつくり、そして行動すること—
皆で考え、一緒に動けば必ず解決策は生まれます!**

出荷直前の現地研修会 (7月7日)



葛川リンドウ栽培ほ場



葛川まちづくり協議会 特産育成部会

各ほ場に設置されている看板

今回は、鹿の食害が多発する中、地域の活性化に取り組む大津市 ^{かつらがわ}葛川地域の事例を紹介します。当地域は、国道367号線沿いに8集落が点在、人口は230名、75歳以上の高齢者が5割を占める中山間地域です。令和元年度から県の「やまの健康」推進事業を活用し、「葛川まちづくり協議会」を設立、『地域の活性化で移住者を呼び込み、人口を倍増させる』ことを目標に力強く取り組まれています。その原動力の一つとなりつつあるのが、リンドウの栽培です。

同協議会の下部組織として6名の特産育成部会が誕生、令和2年5月に8品種3,500本の苗が定植され、栽培2年目の今年7月から9月にかけて初めての収穫が行われました。

★リンドウ栽培の実際

宿根草であるリンドウは、冬の寒さに強く鹿の食害をほとんど受けませんが、ほ場の乾燥に弱く、花の収穫は苗の定植後2年目からです。当地域の土質は、保水力、保肥力ともに乏しいため、特にかん水作業を頻繁に行う必要があります。2年目からは草丈が1m程に伸長するため、倒伏防止用のネットを2～3段に張る必要があります。定期的な施肥や病害虫防除も必須です。

部会員の皆さんは、栽培に手間がかかるという率直な感想をお持ちですが、丁寧な管理作業を実践されています。



江島副知事(右端)が栽培状況を視察

★卸売市場から期待される産地を目指して

リンドウは、使用用途が多岐にわたり、夏季の青色の花として欠かせない存在です。岩手県が国内最大の産地となっています。販売先は、JAの集荷で大阪の卸売市場と、JAの直売所や道の駅です。今年は5千本程度でしたが、卸売市場の評価は高く、直売もお盆の時期を中心に好調でした。来年は2万本の販売を見込んでいます。

安定的な収益確保のため、当初から卸売市場への出荷を視野に入れJAと県が支援を行っています。直売所だけでは販売できる本数に限界があり、一定以上の面積拡大が難しいとの考えからです。



大阪の卸売市場への出荷に向けた箱詰め

★「一緒にやってみひん？」この一言の持つ力は大きい！

昨年移住してこられた20歳代のご夫婦が、今年の春からリンドウ栽培に参加されています。「あんたらも一緒にやってみひん？」ある部会員さんの声掛けがきっかけでした。この一言は、リンドウ栽培に自信がなければ発することができませんし、聞く側にとってこれほど安心できる言葉はありません。

成功の秘訣は、諦めないで、まずはやってみる。その中で改善策を見つけ地道に実践していくことではないでしょうか。「そんなこと、やってもあかん。やらんほうがまし！」と最初から諦めてしまっているのは、問題解決は進みません。

リンドウ栽培も最初からいくつもの壁にぶち当たりましたが、その都度JAや県を交えて解決策を話し合い、その実践に取り組んでこられました。このことが、部会員皆さんの自信につながっています。

農作物を育て、販売する上で100点満点の農地などどこにもありません。現状を直視し、問題点とその解決策を皆で考え、まずは第一歩を踏み出してみる。そこから展望が開けていくのではないのでしょうか。

特定外来生物『オオバナミズキンバイ』に注意 !!

本年8月、南米原産の多年生雑草『オオバナミズキンバイ (以下、本種)』が“水田内での発生”として、県内で初めて草津市において確認されました。本種は繁殖力が旺盛な難防除雑草です。特に外来生物法の特定外来生物に指定されており、**水田に入ると非常に防除が難しく、注意が必要な生物です。**



水田に侵入したオオバナミズキンバイ

オオバナミズキンバイとは

オオバナミズキンバイは、水生の外来雑草で、湖や河川、水田などの環境で増殖します。これまで琵琶湖で発生しており、県自然環境保全課が駆除作業を行ってきました。6月～10月ごろにかけて直径4cmほどの黄色い花をつけます。繁殖力が非常に旺盛で、茎の断片からも根を生やし、分布を広げます。

よく混同されるのは『ヒレタゴボウ』ですが、右表のように花の大きさや形、葉や茎の形状、草丈などが異なるため、他の雑草と区別できます。







発生時の対応について

本種は茎から根が生えて増殖するため、刃物を使った刈り取りは、かえって分布を広げてしまう可能性があります。**特に刈り払い機の使用などは絶対に避けてください。**発生ほ場で使用したコンバインやトラクターに茎が付着し、他の水田へ拡散することも考えられるため、移動前に機械を洗浄する必要があります。また、本種には除草剤の効果が低く、**駆除するには植物体が途中でちぎれないように根から抜き取る必要があります。**

なお、本種は国により「特定外来生物」に指定されており、行政機関の許可なく生きたまま移動することが禁止されています。

管内(大津市、草津市、守山市、栗東市、野洲市)のほ場内で本種に疑わしい雑草を発見した場合は、大津・南部農業農村振興事務所までご連絡ください!

オオバナミズキンバイとヒレタゴボウの見分け方

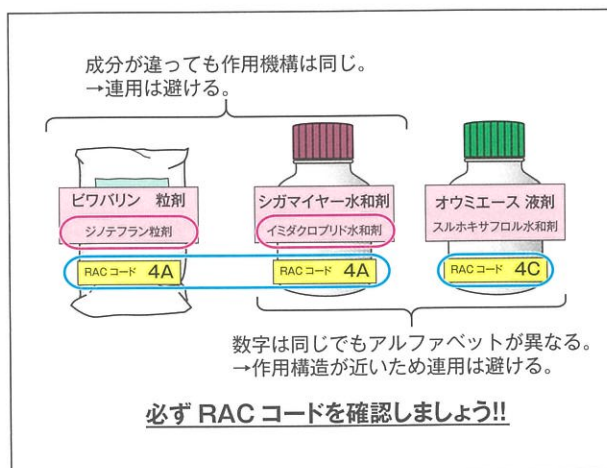
	オオバナミズキンバイ	ヒレタゴボウ
花	 <ul style="list-style-type: none"> ・花が大きい(500円玉大) ・花びらは5枚である 	 <ul style="list-style-type: none"> ・花が小さい ・花びらは4枚で重ならない 
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・葉に丸みがある(特に下方の葉) ・葉色は濃緑色 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉は細長くとがる ・黄緑色がかっている 
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は稲株と同程度以下 ・茎に節があり、地上を這うように広がる ・茎の断面は丸い 	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は稲株を越す事が多い ・茎に節がない ・茎の側面にヒレ状のものが縦方向に付いている

効果的な農薬利用のために



ラック RACコードで計画的なローテーションを組み立てよう！

RAC(ラック)コードをご存知ですか？ RACコードとは、農薬の作用機構分類のことで、同じ作用性*を持つ農薬をグループ化し、それぞれの種類ごとに番号で分けたものです。同じRACコードの農薬を使い続けると、害虫や病気の抵抗性が発達し、農薬の効果が低くなります。RACコードは数字が「1」違うと作用性が異なるため、RACコードの数字が違う農薬を毎回選択することで、抵抗性の発達を遅延させることができます。防除効果を高め、抵抗性を発達させないために、RACコードの異なる農薬でローテーションを組みましょう。



また、商品名が異なっても成分や作用機構が同じ農薬も存在するため、必ずRACコードを確認しましょう。RACコードは農薬の袋やボトルのラベルに記載されている場合がありますが、記載が見つからない場合は、農薬工業会のホームページでも確認できます。

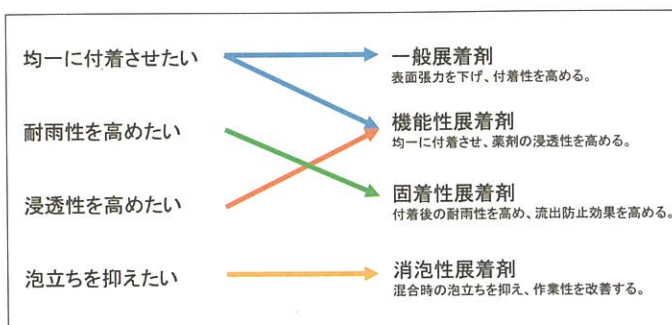
※有効成分が虫や病気のどの部分に働きかけるか。

展着剤を上手に使いましょう！

展着剤は、農薬等を散布する際に混合して使用されます（購入時に展着剤がすでに含まれているものもあります）。混合することで、植物や害虫に対する薬剤の付着性を高めたり、薬剤の効果を高める働きがあります。一方で、使い方を誤ると薬害を発生させる場合があるので、それぞれの展着剤の使い方を理解し、大切な農作物を守りましょう！

●展着剤の種類

展着剤といっても製品によって使用目的や使い方が異なる場合があります。使用するたびにラベルをよく確認しましょう。



●混合の順番は「テ・ニ・ス」と覚えましょう！

テ：展着剤→ニ：乳剤→ス：水和剤

※薬剤によっては混合の順番が異なる場合があるので、薬剤ごとに確認してください。



○作物の濡れにくさ

濡れにくい

イネ、ムギ類、ダイズ
ネギ、タマネギ、サトイモ
キャベツ、ブロッコリー

イチゴ、トマト、ナス
メロン、キュウリ、ブドウ

濡れやすい

カンキツ、ナン、カキ
トウモロコシ、インゲン、サツマイモ
チャ